

親 の研究

～向社会的モチベーションを生み出す後輩の存在～

team 169

荒木・石川・神保・宮下

目次



1. 導入
2. 向社会的モチベーションとは
3. 研究枠組み
4. 仮説の導出
5. 調査方法
6. 分析
7. 追加分析
8. インプリケーション
9. まとめ
10. 参考文献

1. 導入

アルバイト



皆さんに**後輩**はいますか？

サークル・部活

学部

1. 導入



向社会的モチベーション



2. 向社会的モチベーションとは

他者の幸せ
への想い



他者の福利のために自分が
どのように働きかけることが
できるかに関心を持つ動機

(Hu and Liden, 2015)

他人の幸福を守ったり
促進を強く望んだりすること

(Grant et.al, 2010)

向社会的
モチベーション

親心

相手からの感謝

(McCullough et. al, 2001)

自分の共感性

(桜井, 1986)

New

後輩という属性

距離感との関係性

2. 向社会的モチベーションとは



規定要因を調べる
ことが重要である

向社会的
モチベーション



向社会的行動

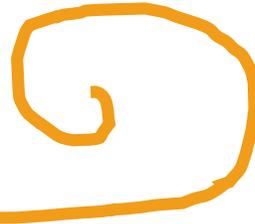
他者の利益になる行動を向社会的行動と呼び、多くの研究がなされてきた。近年では向社会的行動の動機づけ過程が重視されている。

(松崎ら, 1990)

1980年代に入ると社会的意図を遂行レベルまで導く動機づけ過程の存在が重視されてきた。

(Eisenberg, 1986; Schwartz & Howard, 1981)

3. 研究枠組み



アルバイトの後輩

シフトが被ったことがある後輩の中で
一番最近入ったアルバイトの人



反応

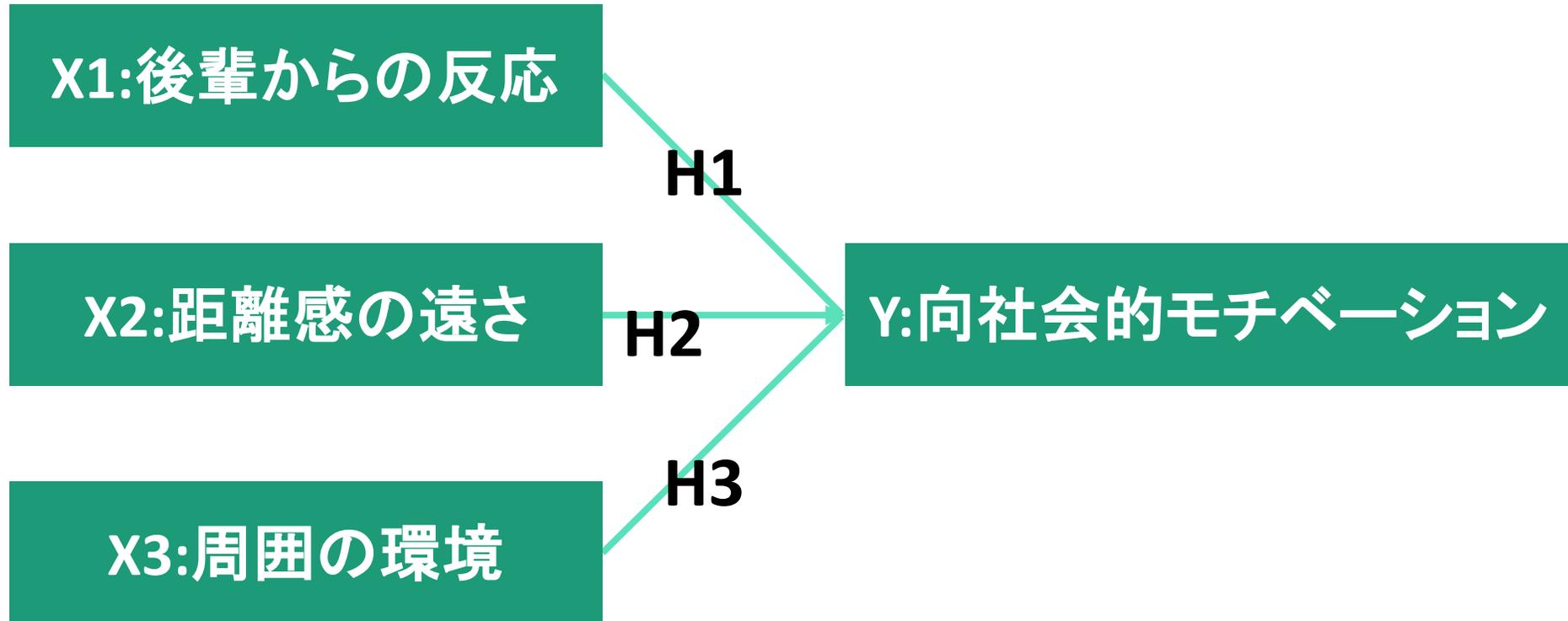
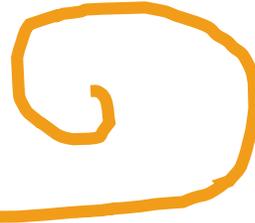
距離感

周囲の環境

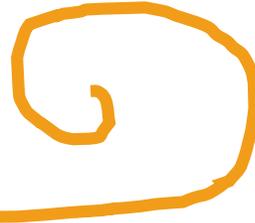
向社会的
モチベーション

親心

3. 研究枠組み



3. 研究枠組み



X1:後輩からの反応

【ポジティブな反応】感謝・称賛

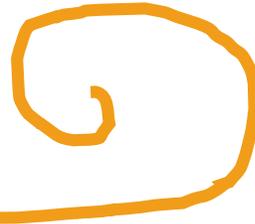
X2:距離感の遠さ

シフトの被り具合
プライベートの関わりなど

X3:周囲の環境

バイトメンバーがどの程度後輩に
向社会的行動を行っているか

3. 研究枠組み



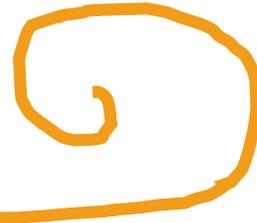
向社会的行動: ある種のコストを伴った援助行動 (菊池, 1988)

メンタリング行動: 知識や経験の豊富なメンター、現時点では未熟な人々 (=メンティー) に対して、キャリアや心理・社会的な側面から継続して行う、キャリア成功を目的とした、一定期間の援助行動をさす。(小野, 2000)

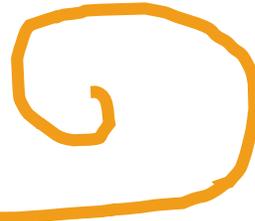


企業でも制度として導入されている**メンタリング行動**に注目

3. 研究枠組み



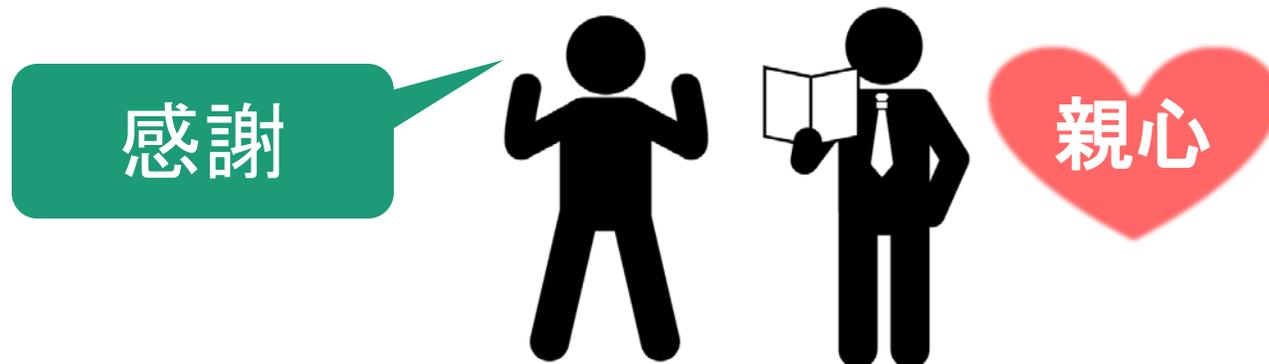
4. 仮説の導出



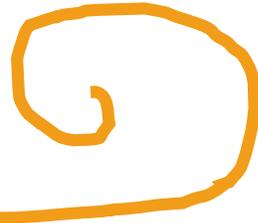
H1:後輩のポジティブな反応は、自分の向社会的モチベーションに
正の影響を与える。

感謝のようなポジティブな反応をされた後では、ポジティブな反応を
されなかった場合と比べて向社会的行動が起こりやすい。

(蔵永ら, 2018)

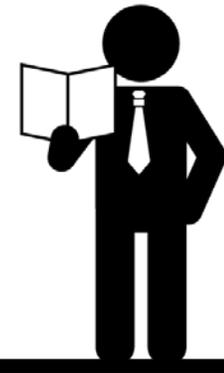


4. 仮説の導出

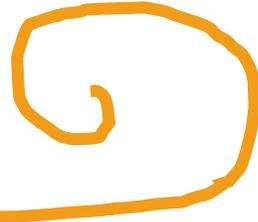


H2:後輩との距離感が遠いと自分の向社会的モチベーションに負の影響を与える。

共感性が高い人の方が向社会的行動をとりやすい。(桜井, 1986)
親密度が低いと共感性は低くなる。(浅川ら, 1987)



4. 仮説の導出



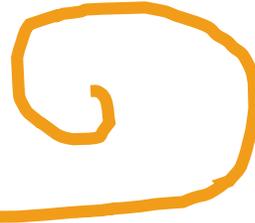
H3:自分がよく向社会的行動の起こる環境の中にいると、
自分の向社会的モチベーションに正の影響を与える。

向社会的行動が身近にあり、その重要性を知っている人は、
そうではない人と比べて向社会的モチベーションが高いと考えられる。

(伊藤, 2004)



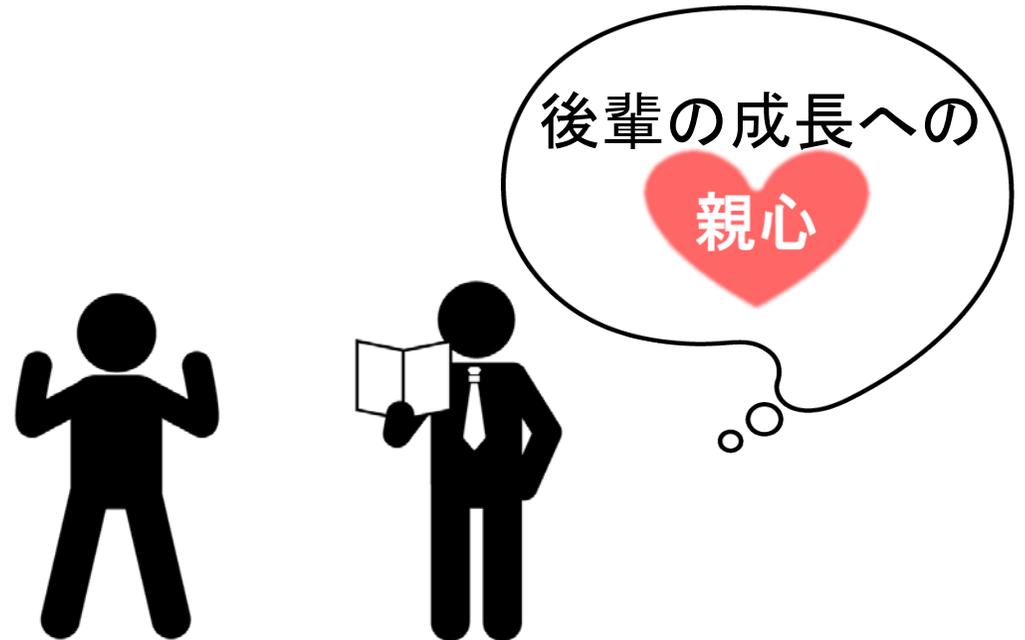
4. 仮説の導出



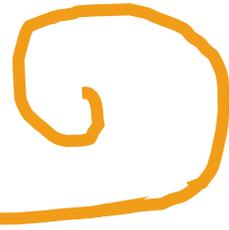
H4: 向社会的モチベーションはメンタリング行動に正の影響を与える。

メンタリング行動

知識や経験の豊富なメンター、現時点では未熟な人々(=メンティー)に対して、キャリアや心理・社会的な側面から継続して行う、キャリア成功を目的とした、一定期間の援助行動をさす。(小野, 2000)

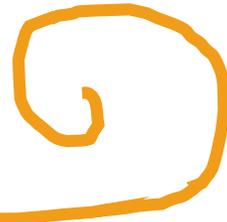


5. 調査方法



対象	アルバイト経験のある 大学生・大学院生
調査方法	Google formを利用した WEB回答
調査期間	平成30年10月23日～30日
サンプル規模	176(男76/女100)

5. 調査方法



コントロール変数

- 性別
- 学年
- アルバイト情報
 - ・ 職種 (飲食ダミー)
 - ・ 職場人数
 - ・ 時給 ・ 勤務日数
 - ・ 勤続年数 (2年以上ダミー)
- 後輩情報
 - ・ 属性 (大学生ダミー)
 - ・ 年齢 (自分より年下ダミー)
 - ・ シフトが被って1ヵ月～3ヵ月ダミー

独立変数 (X)

- 後輩からの反応
 - 蔵永ら (2018) をもとに作成
- 距離感の遠さ
 - 大沼 (2016) をもとに作成
- 周囲の環境
 - 菊池 (1984) をもとに作成

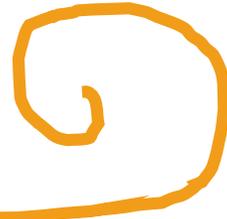
従属変数 (Y)

- 向社会的モチベーション
 - Gebauer et. al (2008) をもとに作成

従属変数 (Z)

- メンタリング行動
 - 小野 (2000) をもとに作成

5. 調査方法



従属変数(Y)

- 向社会的モチベーション $\alpha=0.850$
 - ex) ・後輩が成功した時、自分のことのように嬉しい
 - ・見返りがなくても、後輩をサポートすることが自分の幸せだ

従属変数(Z)

- メンタリング行動 $\alpha=0.872$
 - ex) ・後輩の作業を手伝うことがある
 - ・後輩が失敗した時に、アドバイスしている

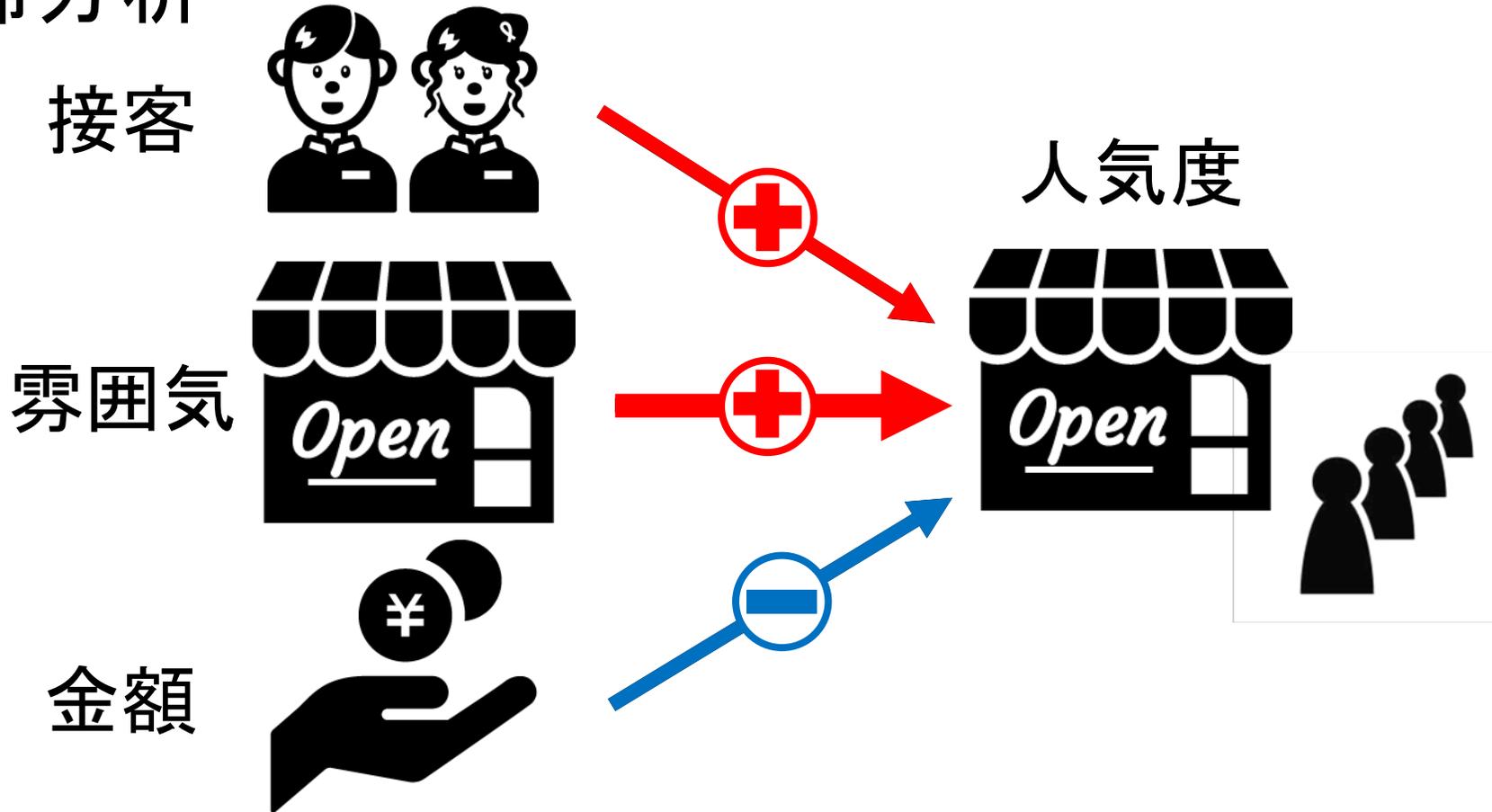
独立変数(X)

- 後輩からの反応 $\alpha=0.746$
 - ex) ・普段からよく感謝の言葉を述べられる
 - ・普段からよく褒められる
- 距離感の遠さ $\alpha=0.740$
 - ex) ・気軽に話すことができる
 - ・業務についてどれだけ分かっているか知っている (逆転)
- 周囲の環境 $\alpha=0.882$
 - ex) ・後輩が悲しんでいる時に、励ましているバイトメンバーがいる
 - ・後輩の不安を取り除こうとしているバイトメンバーがいる

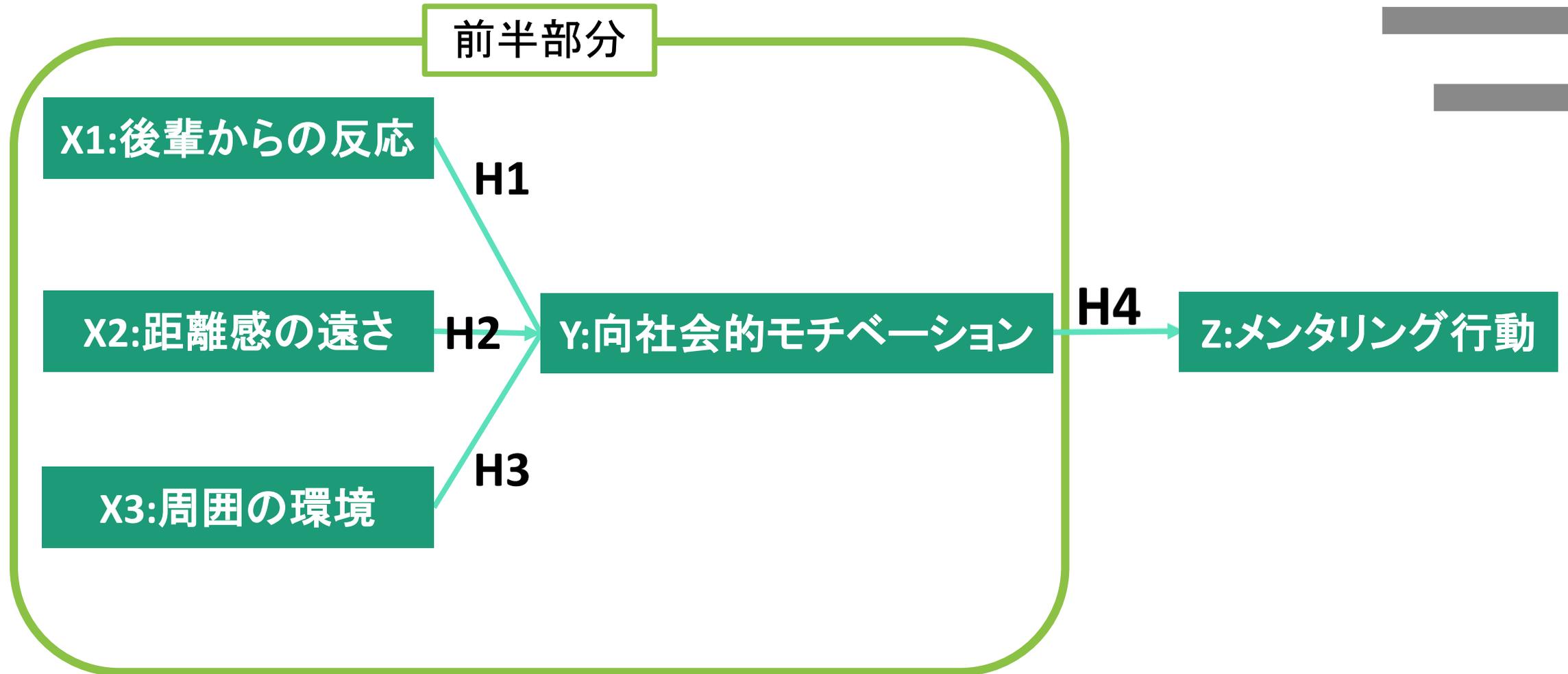
クロンバックの α : 尺度の信頼性を表す指標
0.7を超えると良い値

6. 分析

重回帰分析

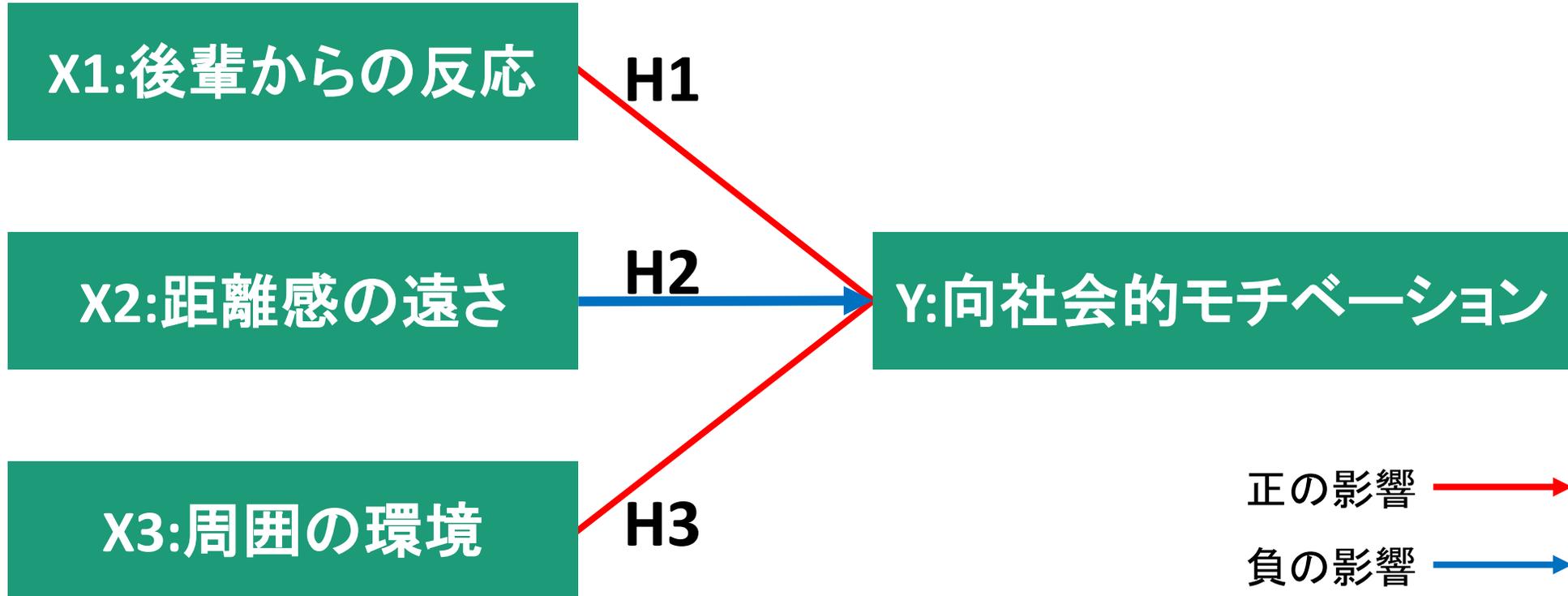


6. 分析



6. 分析

仮説の確認



6. 分析

仮説の検証

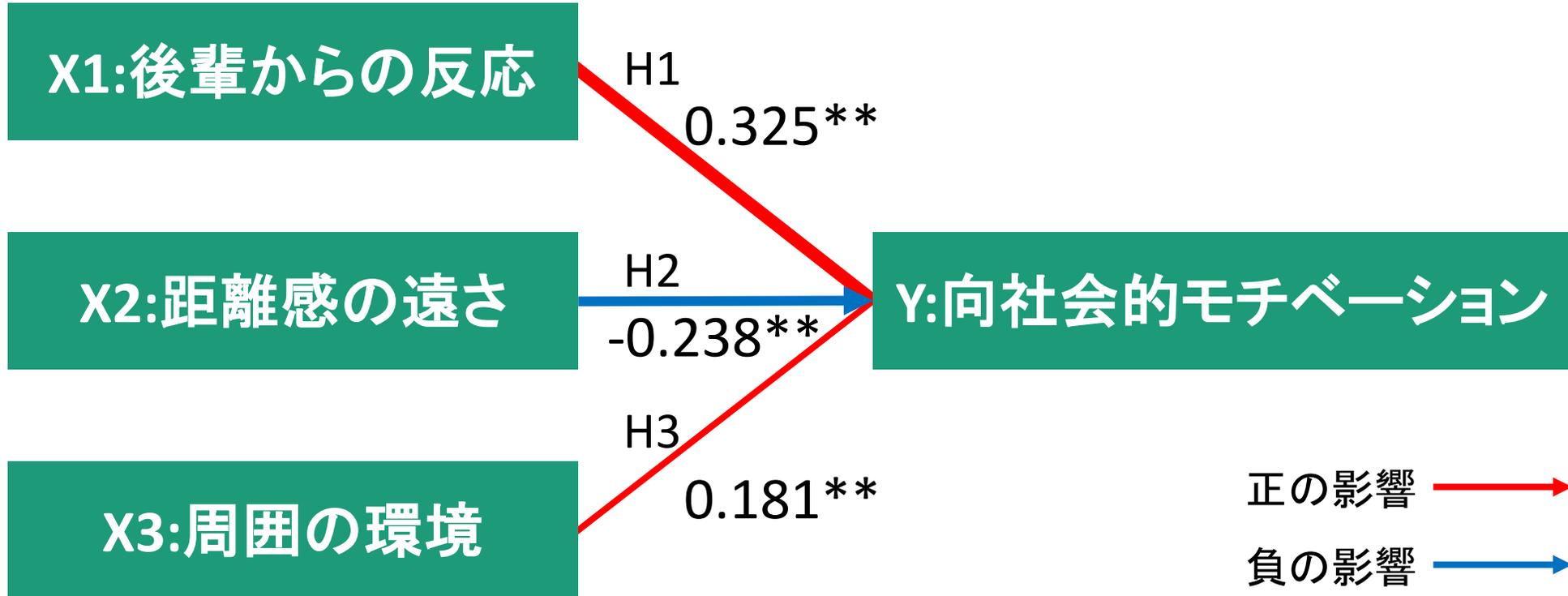
支持

		向社会的モチベ	仮説3	
			p	S.E.
回答者	性別ダミー		0.081	0.118
	学年ダミー		0.014	0.069
	飲食ダミー		0.084	0.120
	店舗人数		-0.042	0.049
	時給		0.011	0.059
	勤務日数		0.020	0.055
	勤務年数(2年以上ダミー)		0.007	0.134
後輩	大学生ダミー		-0.236 +	0.131
	自分より年下ダミー		0.223	0.135
	シフトが被って1ヵ月~3ヵ月ダミー		0.145	0.117
X	後輩からの反応		0.325 **	0.062
	距離感遠い		-0.238 **	0.075
	周囲の環境		0.181 **	0.056
	調整済み決定係数		.379	
	切片		3.347**	
	F値		9.219**	

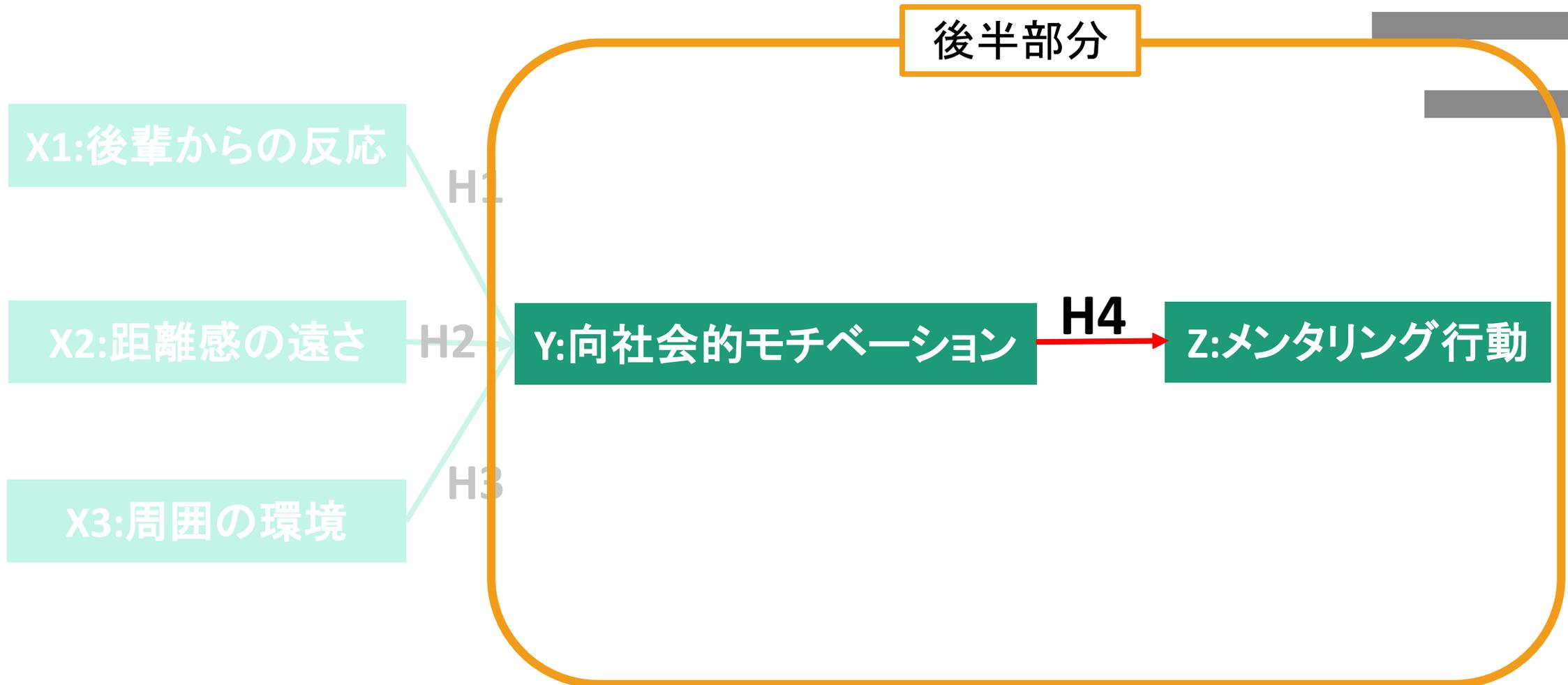
** p < .01, * p < .05, + p < .10

6. 分析

仮説の検証



6. 分析



6. 分析

仮説の検証

支持

		仮説4	
		β	S. E.
回答者	性別ダミー	.000	0.118
	学年ダミー	-.009	0.069
	飲食ダミー	.031	0.120
	店舗人数	.053	0.048
	時給	-.059	0.059
	勤務日数	.080	0.055
	勤務年数(2年以上ダミー)	.094	0.134
後輩	大学生ダミー	.035	0.130
	自分より年下ダミー	.087	0.134
	シフトが被って1ヵ月~3ヵ月ダミー	-.132 *	0.116
Y	向社会的モチベ	.558 **	0.061
	調整済み決定係数	.375	
	切片	1.287**	
	F値	10.555**	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

6. 分析

仮説の検証

Y: 向社会的モチベーション

H4

0.558**

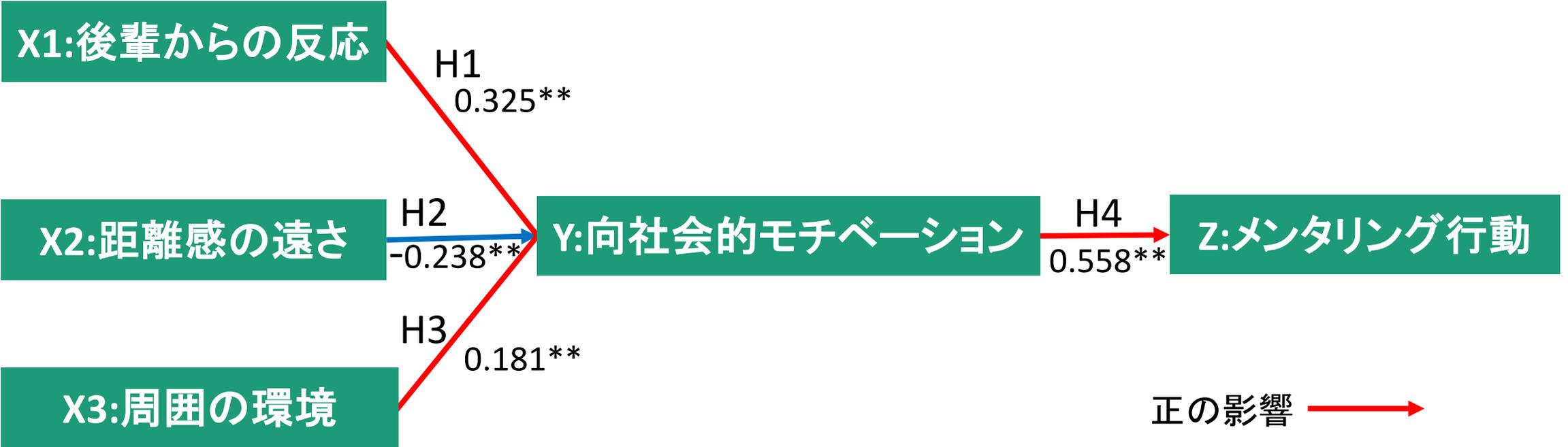
Z: メンタリング行動



向社会的モチベーションがある人は
制度がなくてもメンタリング行動をする！

6. 分析

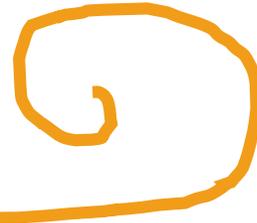
研究のまとめ



7. 追加研究

後輩の存在や周囲の環境と
メンタリング行動の関係性
気になりませんか？

7. 追加研究



媒介分析を使用

X1:後輩からの反応

X2:距離感の遠さ

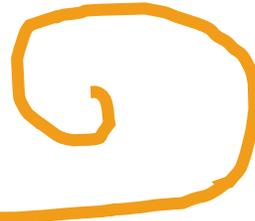
X3:周囲の環境

Y:向社会的モチベーション

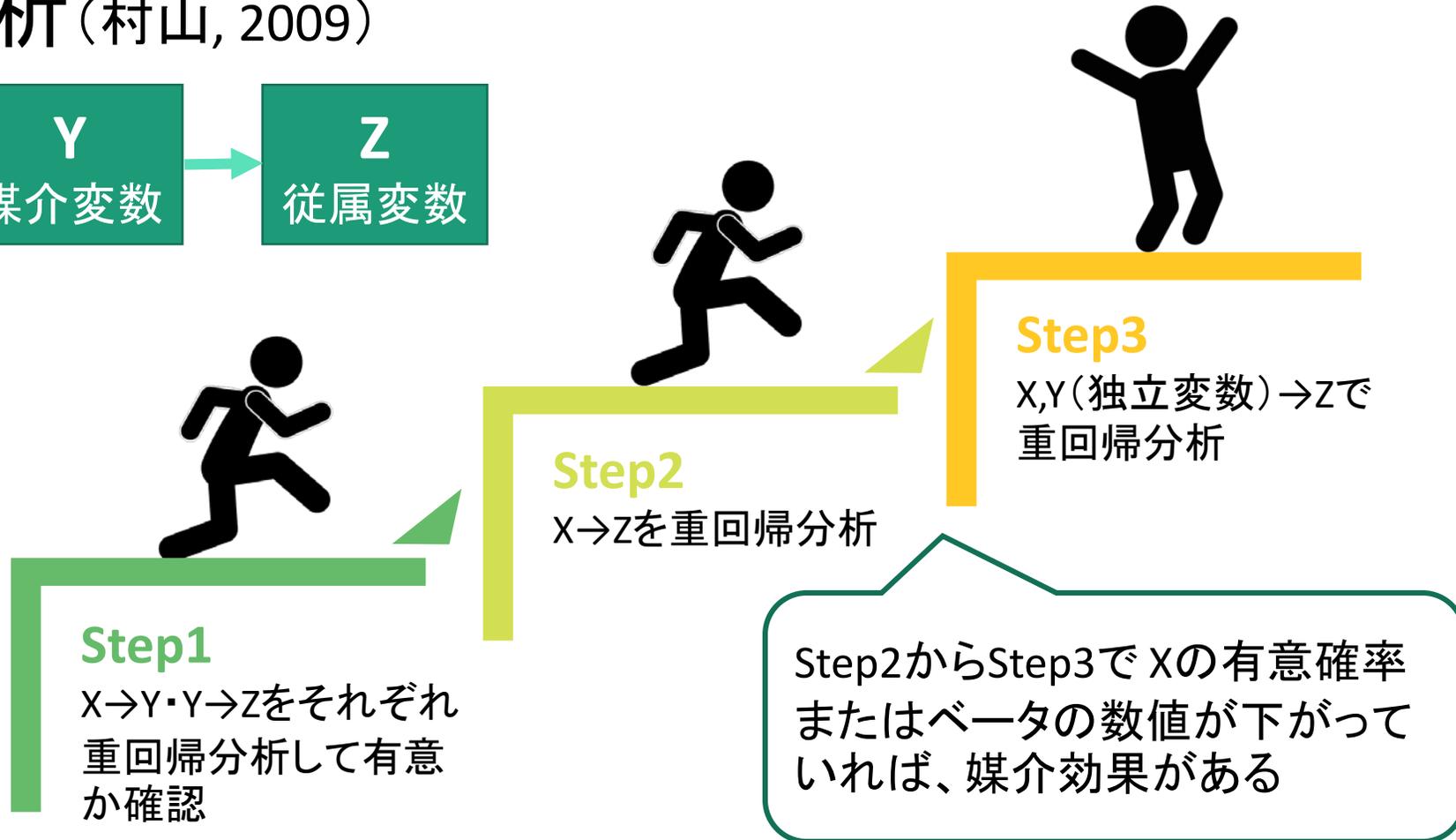
Z:メンタリング行動



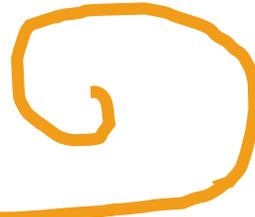
7. 追加研究



媒介分析 (村山, 2009)



7. 追加研究



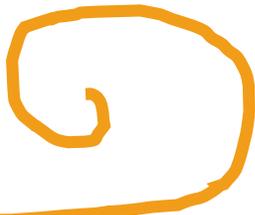
	従属変数	向社会的モチベ				メンタリング			
		Step1				Step2		Step3	
		X→Y		Y→Z		X→Z		X・Y→Z	
		β	S. E.	β	S. E.	β	S. E.	β	S. E.
回答者	性別ダミー	.045	0.118	.000	0.118	.037	0.120	.020	0.112
	学年ダミー	.014	0.069	-.009	0.069	-.031	0.070	-.036	0.065
	飲食ダミー	.047	0.120	.031	0.120	.033	0.122	.015	0.114
	店舗人数	-.054	0.049	.053	0.048	.019	0.049	.040	0.046
	時給	.012	0.059	-.059	0.059	-.057	0.060	-.062	0.056
	勤務日数	.023	0.055	.080	0.055	.088	0.056	.080	0.052
	勤務年数(2年以上ダミー)	.003	0.134	.094	0.134	.111	0.136	.109	0.127
後輩	大学生ダミー	-.115 +	0.131	.035	0.130	-.054	0.133	-.010	0.125
	自分より年下ダミー	.107	0.135	.087	0.134	.113 +	0.138	.072	0.129
	シフトが被って1か月～3か月ダミー	.079	0.117	-.132 *	0.116	-.039	0.119	-.069	0.112
X	後輩からの反応	.388 **	0.062			0.186 *	0.064	0.04	0.064
	後輩との距離感	-.231 **	0.075			-0.4 **	0.077	-0.31 **	0.074
	周囲の環境	.216 **	0.056			0.127 +	0.057	0.045	0.055
Y	向社会的モチベ			0.558 **	0.061			0.378 **	0.074
	調整済み決定係数	.379		.375		.362		.448	
	切片	2.173		1.287		3.449		2.623	
	F値	9.219**		10.555**		8.653**		11.141**	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

反応と環境に
注目します！



7. 追加研究

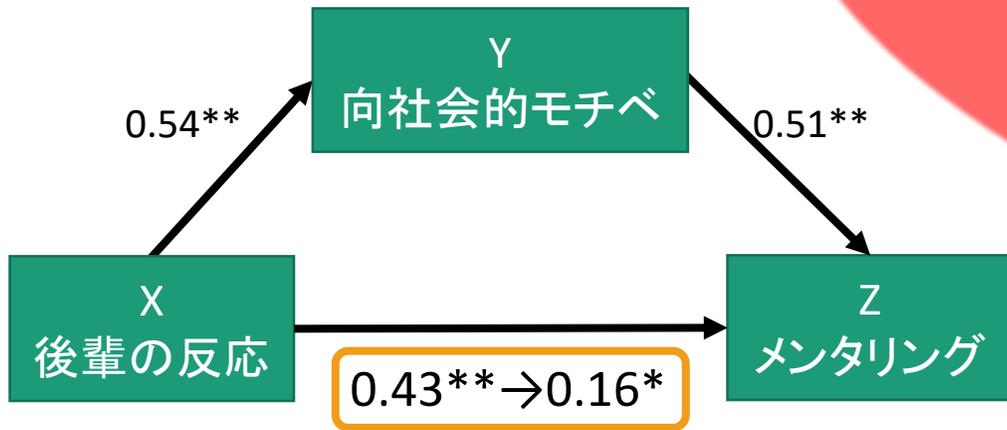


媒介性が確認できた変数について
ブートストラップ法

N=2000



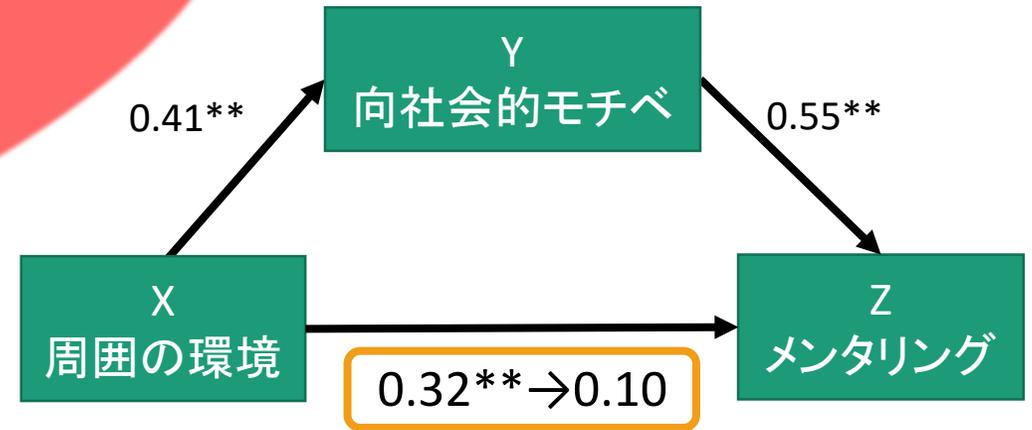
後輩からの反応



99%下限:0.112, 99%上限:0.380

** p < .01, * p < .05, + p < .10

周囲の環境



99%下限:0.081, 99%上限:0.320

** p < .01, * p < .05, + p < .10

7. 追加研究

結果



後輩からの反応と周囲の環境は向社会的モチベーションを介することによってメンタリング行動に影響を与える。

8. インプリケーション



学術的インプリケーション

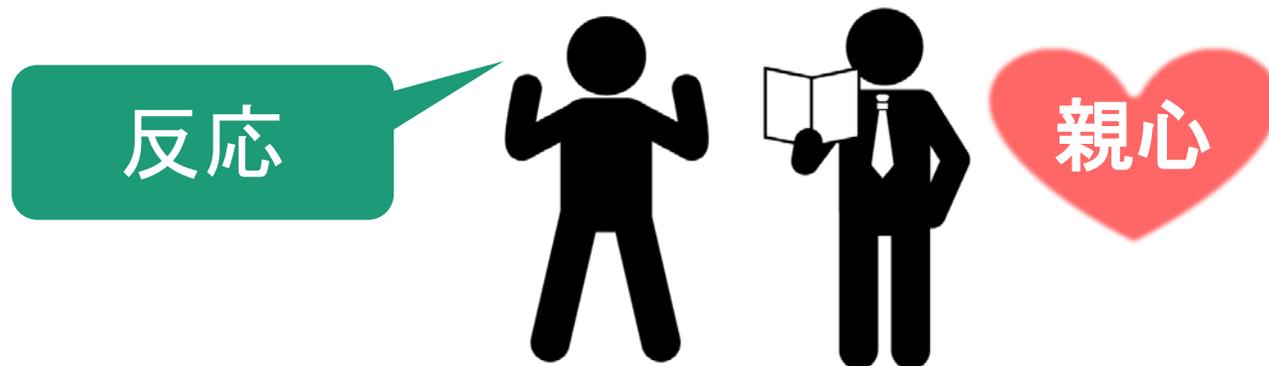
- 後輩の存在や距離感が向社会的モチベーションの規定要因になりうることを示した研究であり、新規性がある。
- 後輩からの反応と周囲の環境は、向社会的モチベーションを介することによって、メンタリング行動の発生を促進する。

8. インプリケーション

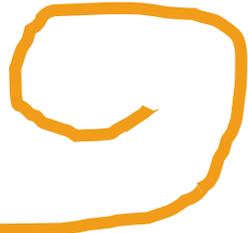


実務的インプリケーション

- 先輩目線のアプローチが着目されることが多いが、後輩からの感謝のようなポジティブな反応が先輩の向社会的モチベーションを生み出す。



9. まとめ



後輩からの反応と周囲の環境は
向社会的モチベーションを介して
メンタリング行動に影響を与えている。

X1:後輩からの反応

X2:距離感の遠さ

X3:周囲の環境

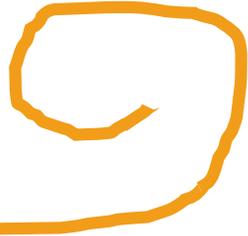
Y:向社会的モチベーション

Z:メンタリング行動

正の影響 →

負の影響 →

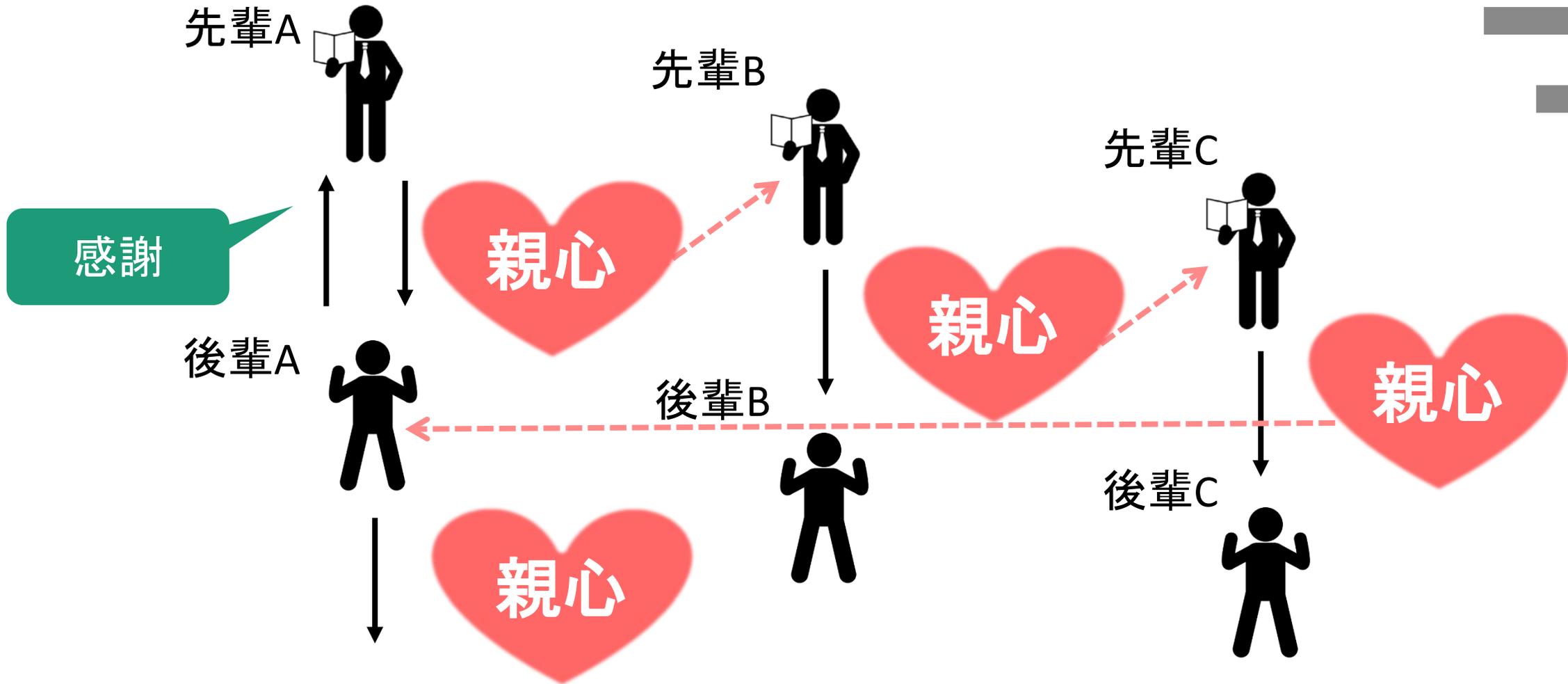
9. まとめ



「親思う心にまさる  親心」

By 吉田松陰

9. まとめ



9. まとめ



team 169



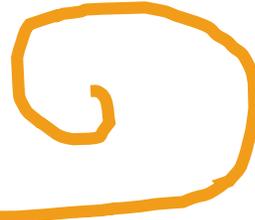
「親思う心から広がる



」

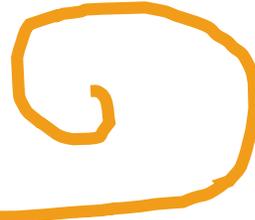
By team 169

10. 参考文献



- Eisenberg, N. (1986) *Altruistic emotion, cognition, and behavior*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Gebauer, J.E., Riketta, M., Broemer, P. and Maio, G.R. (2008). "Pleasure and pressure based prosocial motivation: divergent relations to subjective well-being", *Journal of Research in Personality*, Vol.42, pp.399-420.
- Grant, A. M. and Berg, J. M. (2010). "Prosocial Motivation at Work: When, Why, and How Making a Difference Makes a Difference", *Handbook of Positive Organizational Scholarship*. Oxford University Press.
- Hu J. and Liden R. C. (2015). "Making a difference in the teamwork: Linking team prosocial motivation to team processes and effectiveness", *Academy of Management Journal*, Vol.58, No.4, pp.1102-1127.
- Jaujira Wangwan(2004)「日本とタイの大学生における感謝心の比較研究(1)」『日本道徳性心理学研究』 Vol.18, pp.8-14.
- McCullough, M.E., Kilpatrick, S.D., Emmons, R.A. and Larson, D.B.(2001). "Is gratitude a moral affect?", *Psychological Bulletin*, Vol.127, pp.249-266.
- Schwartz, S. H., and Howard, J. A. (1981). "A normative decision-making model of altruism. ", In Rushton, J.P. and Sorrentino R.M.(Eds.), *Altruism and helping behavior* . Hillsdale, NJ:Erlbaum.
- 浅川 潔司・松岡 砂織(1987)「児童期の共感性に関する発達的研究」『教育心理学研究』 Vol.35, No.3, pp.231-240.
- 伊藤 順子(1997)「幼児の向社会的行動における他者の感情解釈の役割」『発達心理学研究』 Vol.8, No.2, pp.111-120.

10. 参考文献

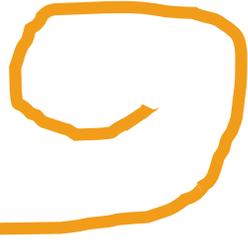


- ・大沼 沙樹(2016)「トランザクティブ・メモリー・システムと部門成果に関する実証実験」『商学研究科紀要』 Vol.82, pp.1-20.
- ・小野 公一(2000)「メンタリング尺度の信頼性と妥協性の検証」『亜細亜大学経営論集』 Vol.35, No.1・2, pp.1-20.
- ・菊池 章夫(1984)「向社会的行動の発達」『教育心理学年報』 No.23, pp.118-127.
- ・菊池 章夫(1988)『思いやりを科学する 向社会的行動の心理とスキル』川島書店
- ・蔵永 瞳・樋口 匡貴・福田 哲也(2018)「感謝された後に向社会的行動が起こるまでの心理過程」『心理学研究』 Vol.89, No.1, pp.40-49.
- ・桜井 茂男(1986)「児童における共感と向社会的行動の関係」『教育心理学研究』 Vol.34, No.4, pp.342-346.
- ・松崎 学・浜崎 隆司(1990)「向社会的行動研究の動向—内的プロセスを中心にして」『心理学研究』 Vol.61, No.3, pp.193-210.
- ・村山航(2009)「媒介分析・マルチレベル媒介分析」<http://koumurayama.com/koujapanese/mediation.pdf>
(2018年11月29日アクセス)
- ・山村 麻予・真下 知子・三宮 真智子(2016)「大学生における困窮事態の分類と構造化」『人間環境学研究』 Vol.14, No.1, pp.65-74.

ご清聴ありがとうございました



おまけ



#親心

#実践してみた

#サンクスカード作ってみた

親  の研究

～向社会的モチベーションを生み出す後輩の存在～

Thank you!

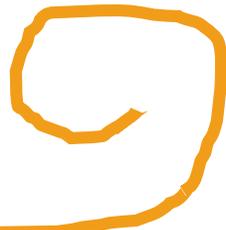
親  の研究

研究の限界



- サンプル数が少なかった
交互作用を見ることができなかった
- サンプル数に偏りがある
大学生・大学院生を対象、アルバイトを対象とした
- 「向社会的モチベーション→距離感の遠さ」のように、入れ替えても考えられるかもしれない

分析

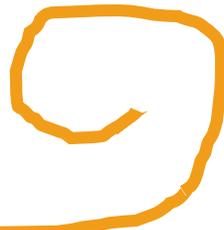


交互作用なし

	向社会的モチベ	仮説1, 2, 3		仮説4		仮説5	
		β	S. E.	β	S. E.	β	S. E.
回答者	性別ダミー	0.081	0.118	0.044	0.118	0.043	0.118
	学年ダミー	0.014	0.069	0.013	0.069	0.022	0.070
	飲食ダミー	0.084	0.120	0.051	0.120	0.048	0.120
	店舗人数	-0.042	0.049	-0.045	0.049	-0.051	0.049
	時給	0.011	0.059	0.008	0.060	0.005	0.060
	勤務日数	0.020	0.055	0.023	0.055	0.017	0.055
	勤務年数(2年以上ダミー)	0.007	0.134	-0.002	0.134	-0.009	0.135
後輩	大学生ダミー	-0.236 +	0.131	-0.106	0.132	-0.109 +	0.133
	自分より年下ダミー	0.223	0.135	0.112 +	0.136	0.112 +	0.136
	シフトが被って1ヵ月~3ヵ月ダミー	0.145	0.117	0.065	0.120	0.060	0.121
X	後輩からの反応	0.325 **	0.062	0.390 **	0.062	0.385 **	0.063
	距離感遠い	-0.238 **	0.075	-0.213 **	0.078	-0.191 *	0.082
	周囲の環境	0.181 **	0.056	0.219 **	0.056	0.197 **	0.060
	反応*距離感遠い			0.061	0.059	0.058	0.059
	反応*距離感遠い*環境					-0.067	0.045
	調整済み決定係数	.379		.379		.378	
	切片	3.347**		3.373**		3.370**	
	F値	9.219**		8.620**		8.087**	

** p < .01, * p < .05, + p < .10

分析



	向社会的モチベ	仮説1, 2, 3		仮説4		仮説5	
		β	S. E.	β	S. E.	β	S. E.
回答者	性別ダミー	0.081	0.118	0.044	0.118	0.043	0.118
	学年ダミー	0.014	0.069	0.013	0.069	0.022	0.070
	飲食ダミー	0.084	0.120	0.051	0.120	0.048	0.120
	店舗人数	-0.042	0.049	-0.045	0.049	-0.051	0.049
	時給	0.011	0.059	0.008	0.060	0.005	0.060
	勤務日数	0.020	0.055	0.023	0.055	0.017	0.055
	勤務年数(2年以上ダミー)	0.007	0.134	-0.002	0.134	-0.009	0.135
後輩	大学生ダミー	-0.236 +	0.131	-0.106	0.132	-0.109 +	0.133
	自分より年下ダミー	0.223	0.135	0.112 +	0.136	0.112 +	0.136
	シフトが被って1ヵ月~3ヵ月ダミー	0.145	0.117	0.065	0.120	0.060	0.121
X	後輩からの反応	0.325 **	0.062	0.390 **	0.062	0.385 **	0.063
	距離感遠い	-0.238 **	0.075	-0.213 **	0.078	-0.191 *	0.082
	周囲の環境	0.181 **	0.056	0.219 **	0.056	0.197 **	0.060
	反応*距離感遠い			0.061	0.059	0.058	0.059
	反応*距離感遠い*環境					-0.067	0.045
	調整済み決定係数	.379		.379		.378	
	切片	3.347**		3.373**		3.370**	
	F値	9.219**		8.620**		8.087**	

交互作用なし

** p < .01, * p < .05, + p < .10

分析

考察

反応がよく、距離感が遠い後輩がいてさらに周囲で頻繁に向社会的行動が起こるアルバイト先の割合は低いのではないかと？

反応 * 距離感遠い

サンプル数の

7.3%

反応 * 距離感遠い * 環境

サンプル数の

4.5%

